

とらづかこふん  
**虎塚古墳**

—東日本を代表する彩色壁画古墳—



◆ 遺跡の位置・規模

常磐線勝田駅の南東約 4.5 km の大字中根字指<sup>さしぶ</sup>洪に所在する虎塚古墳は、彩色壁画で全国的に有名です。虎塚古墳は、標高約 20m の本郷川右岸台地上に築かれた前方後円墳で、全長 56.5m、後円部の直径 32.5m、高さ 5.7m、前方部の幅 38.5m、高さ 5.2m を測ります。虎塚古墳の墳丘は、前方部が後円部と同じ位に発達した後期古墳の特徴を持っており、古墳時代の終末期の 7 世紀初め頃(約 1400 年前)に築造されました。当時の日本は、聖徳太子(574~622 年)が飛鳥地方(奈良県)で政治を行っていた時代にあたります(最近では、聖徳太子の活躍に色々な疑問が出されています)。

◆ 調査の成果

昭和 48(1973)年夏に、市史編さん事業により実施された発掘調査で、後円部南側に開口する凝灰岩製(門や塀に使用する大谷石と同じ種類)の横穴式石室が発見されました。石室は長さ 1.3m の羨道部(玄室に至る通路部)の奥に玄室(遺骸を安置する部屋)があり、玄室の長さは約 3m、幅 1.5m、高さ 1.4m です。奥壁・東壁は 1 枚、西壁は 2 枚、天井は 3 枚、床は 7 枚の凝灰岩で造られています。玄室入口に立てかけられていた高さ 1.2m、下部幅 1.2m、厚さ約 20cm の台形の扉石を取り外すと、玄室内から色鮮やかで保存状態が良好な彩色壁画が発見されました。

◆ 壁画の特徴

壁画は、灰色の凝灰岩の表面に白色粘土を下塗りし、酸化第二鉄(ベンガラ)の赤色顔料により描かれています。玄門部の上部にも彩色が認められ、扉石が安定するように柱石などに柄が穿っており、この部分に連続三角文が描かれています。玄室内の天井・床面には、赤色顔料が全面に塗布され、奥壁・左右の側壁の 3 面に各種の紋様が描かれています。

奥壁には、中央部に2個のドーナツ状の環状文が描かれ、左側の環状文は直径約34cmで、右側はこれよりやや小さい。コンパスを用いて円を描き、中央部径12cmを残して彩色されています。この紋様については、日と月や蛇の目などいくつかの解釈があります。環状文のすぐ上には三角をつき合わせたような紋様があり、さらに天井付近にはのこぎりの歯のようなギザギザの紋様(連続三角文)が描かれています。この紋様は左右の壁天井付近にも描かれています。これらの幾何学文のほか下部には、<sup>ゆき</sup> 鞆(矢を容れて背中に背負う武具)・<sup>とも</sup> 鞆(弓を射る際に手の甲を守るための防具)・槍・大刀などの当時の武器・武具など豊富な文様が描かれています。

東壁には、1枚の板の上に並べたように鞆2個と楯3個が描かれ、奥上方に渦巻文、手前に頸玉、2個1対の鏡と思われる紋様などが描かれています。西壁上部の9個の直径15cmの円文は、鏡の表現であろうと推定され、手前には東壁と同じ鏡などが描かれています。これらの壁画は、死者を悪霊から守る呪術的<sup>じゆじゆつてき</sup>な魔除けのために描かれたと考えられています。

#### ◆ 出土遺物

石室の内部からは、成人男性の遺骸1体と、<sup>こたち</sup> 小大刀・<sup>とうす</sup> 刀子(小刀)・<sup>てつぞく</sup> 鉄族など5~6点の副葬品が発見されました。

小大刀は全長38cm、身幅3.2cm、<sup>つかがしら</sup> 柄頭は木質の造り出しで、頭に銀製の紐通し環が付けられています。また、<sup>しゅうぼり</sup> 周堀や<sup>ぼどう</sup> 墓道からは<sup>てつほこ</sup> 鉄銚・<sup>てつくしろ</sup> 鉄釧・鉄鏃などが出土しています。通常、古墳からは鉄製品などの多くの副葬品が出土しますが、虎塚古墳ではわずかな副葬品が残されているに過ぎませんでした。あるいは、実物ではなく武器・武具を壁画に描くことにより、副葬品として代用したのかもしれない。

なお、虎塚古墳からは<sup>はにわ</sup> 埴輪はまったく出土しませんでした。虎塚古墳の時期には、すでに埴輪を立てる風習がなくなったものと考えられます。

これらの虎塚古墳出土品一括は、ひたちなか市有形文化財に指定され、隣接する市埋蔵文化財調査センターで収蔵・展示しています。

#### ◆ 壁画の公開

昭和49(1974)年1月に国の史跡に指定され、虎塚古墳の規模等の全体像を把握するため、昭和51(1976)年まで古墳くびれ部、周堀等の2次の発掘調査を実施し、その後、壁画を保存するとともに公開する方法等について検討を重ねて、昭和55(1980)年秋に公開保存施設が完成しました。

それ以降、壁画の保存に影響を及ぼさないように、保存状況を観察しながら、外気温度が石室とほぼ同じ頃の季節である春(4月上旬)と秋(11月上旬)に壁画の一般公開(有料)を行っています。

壁画の公開の日程等につきましては、下記にお問い合わせください。

ひたちなか市教育委員会総務課文化振興室

TEL 029-273-0111 FAX 029-263-2891